

読書ノート

① 戦争をやめた人たち 1914年クリスマス休戦

鈴木もる文・絵 あすなう書房

「戦場ではんとうにあた奇跡のような実話。
銃弾ではなく歌を、大砲ではなくサッカーを。
兵士を変えた一夜のできごと」。

—ドイツ兵の「さんざうから聞こえる歌声。ドイツ語なのでなんといつてさり、わかりません。でもそのメロディーはわかります。クリスマスの歌、「よしこの夜」です。全10ページあわいも170枚の絵。
第一次世界大戦、ドイツとフランスの長い過酷な戦い。クリスマスの夜聞こえてきた歌声……。

昔見た映画、「西部戦線異常なし」かく浮かぶ。
そして私が18歳のときから2年余りかけてひたすら
読んだ「黄色い表紙の本」「千ボリ家の人々」第4巻
は、「1914年夏」。第一次世界大戦が始まった年。
主人公ジックの死……。作者があとがいの絵を描いて
いるとき、ロシアがウクライナに侵攻。「音楽やスポーツ、
芸術活動はたれもかかれていた感覚です。ひとり
ひとりの想像力が戦争をやめる力を生み出すのだ」と思います。この絵本がウクライナの人たちの幸せにな
づけさせることを願っています」と結んでいます。

② せかいいち うつくしいぼくの村 作・絵小林豊 和フラ社

“すもし、さくら、なし、ヒースタオル。はる、ハグマンの村。は
はなで”いっぽいになります。“あだやかな美しい村。
おとなも子とももロハモ林人みんな家族。
最後のページ。“このとしのふゆ、村はせんそうで
はかいされ、いまはもうありません。”うすい黄色
でぬられただけの絵のないページで“おわり”
戦争の終わらないアフガニスタン。6月22日大地震により
1000人を超える犠牲者か。

サヤインケンと油揚げの炒め煮(市の 広葉柄)

(2人) サヤインケン80g(約25本)

ヘタを取り、斜めに2等分してラップに包み
電子レンジで1分。

人参 60g 細切り。

油揚げ 15g(2枚) 鶏湯かけて短冊切。

・フライパンにコマ油小さじ1 炙し人参、
インケン・油揚げの順に炒める。

・水100ml、かつおだし2g
しお味、みりん各小さじ1、酒大さじ1/2を
入れ、汁気がほんとうなくなままで煮る。
皿に入れ、コマをふる。

インケン／煙がいい、私は
人参／色がきれいい、私は
昆布／星も味付けがテキトウだ

金メダルもらつたよ!!
フィンランドの光太郎(川柳)は、
サッカーも活躍、スウェーデン遠征の
試合で優勝!!

大上宇一(奇人博物学者)は、生前図書館
の必要性を説きつけた。日中事変、満州
事変と引き続いで軍部が突出し、わが国
が泥沼のような戦争にのめりこんでいった
ところである。「軍は世界の狂乱病なり」。
そんなことを日録に書いている。

軍事費をへらして図書館にあつることを
力説した。國を興すのは軍隊ではなく、文化や学問であって、戦争を仕事
にはできないだろう。

季刊銀花第百号 「二列目の人生」その一
1994. 池内紀

けやき通信 2022.7月
No.349

—錦織佳代子—

うちの畠
GORさん手掘りの井戸
のおかげで
毎日新鮮やさいです。



梅雨があつとう間に終わり、
40度を超える地域もいくつか、
今もり熱中症警戒戒アラート。
それを“危険な暑さ”が続く、気温
節水の呼びかけ。

何気なく目に止めた昔の雑誌、古新聞
相手の本を開くといふことか書ってあった。

戦争とは何か、それは殺人であり
破壊であり、難民である

最上茂樹 媚人立友5月号

戦争よりも本がいい(書名)池内紀

頭上にミサイルでなく本を降らせていたら。
足元に地雷でなく小麦をまっていたら。
アフガンの人々がここまで苦しむことは
なかつた。 映画監督モフセン・ママルダフ氏
日本経済新聞 2021.9.8.

⑦ 早朝、四ヶ領へ。ササエリ、タマガワホトキス、鳳穴でヒヨウの青ハケシの花、珍しい花たち。